

さいたま県産材
認証材で

大型木造を建設中

農業大学の建設現場を視察

埼玉県木材協会



通路棟を視察する埼玉県木材協会一行

埼玉県農業大学の木造棟が上棟し、埼玉県木材協会（坂東正一郎会長）の会員ら約30人が9日、現場視察を行った。坂東会長は「森林・林業再生プラン以降、林業や木造建築の推進方策が出され、県内でも約半数の都市が木材利用方針を策定した。庁舎や学校を木材で作る国民運動を広げていきたい」とあいさつした。

見学会で校を建設し、15年4月は埼玉県農林部農業支援課農業大

学校担当の宮坂はじめ氏が建築の概要を説明し、現在鶴ヶ島市にある大学校は農林総合センターなどがある熊谷市の隣接地に移転し、20・6月の敷地に大学

そのため、特記仕様書にはさいたま県産材認証制度の認証材の使用を明記し、これをほぼ実現できる見込みだ。工事では熊谷農協のもみ殻を使ったもみ殻ボードを天井に施工する工事を行っており、また、メディアギャラリーの壁にLVLを使用することなどが説明された。

延べ床面積は7681平方メートル（木造、一部RC、S造）。現在建設工事が進んでいるセンターゾーンは80分の通路棟を挟み、木造施設との間にRCなどの区画を設け、木造の面積制限などを受けないように設計されている。使用する木材は約1000立方メートルで、体育館の床などを除く97%は県産材を使用する。

構造はKES構法を採用、杉構造用集成材はラミナを県内の森林組合（こだま、埼玉県中央部、秩父）から丸太を供給し、吉田木材工業、協同組合彩の森とき川などで製材し、遠野グループラムで集成加工されたものを使用する。